



新春のご挨拶

若穂地区住民自治協議会 会長 小宮山泰典

新年おめでとうございます。皆様、穏やかな新年をお迎えのことと思います。

人間はさまざまな事、数えきれない多くの物を創造してきましたが、1時間、1日、1月、1年という連綿とした時間を数える単位を創り出したのは偉大なことだと思います。

そして、毎年繰り返されることですが、12月31日までの慌しさが終わり、元旦の朝を迎えると身も心も新しく生まれ変わったような気持ちになるのは不思議なものです。

年号が改まった令和元年には台風19号による大きな被害があり、令和2年は、コロナウィルスの感染が世界的に広がり社会活動に非常に大きな影響を及ぼし続けています。このため、住民自治協議会も重要な総会の代議員出席による開催を断念し、文書による議決としなければなりませんでしたが、他にも様々な事業や活動の取り止めや縮小、延期が連続しました。会議に全員がマスクを付けている光景も今では当然のこととして馴染みさえ生じています。

ただ、今後もこうした状況が続きますから、どのようにすれば事業の実施が可能になるのかを考えて実行していくことが大切であると思います。

当然ですが悪い事ばかりではありませんでした。とびっくランのイベントも、例年同様な規模での開催は断念しましたが、十分な対策を講じて地区内の小中学生参加によるミニイベントを実施し、子どもたちが日頃のストレスを払いのけるように元気に走っていました。

また、岡田荘史元市議が構想を立ち上げ、長い間要望活動を続けてきた悲願の「若穂スマートインターチェンジ」の事業化が昨年10月に決定しました。そして、それに伴って落合橋の架け替えや長野管平線の改修も具体的な進展がみられます。更に、インター建設に伴い地場産品を販売する道の駅の構想も出ています。こうした大規模な事業により、地域の経済活動が活性化して雇用が生まれ、人口増加の可能性も大きくなっています。

今後、若穂地区は大きな変容を遂げていくものと思いますが、大切なのは成り行きに任せるのではなく、私たち若穂に住む住民が将来に向けたビジョンを持って積極的に関与していくことが大事なのだと感じています。

最後に、住民の皆様にとって今年が良い一年となることを祈りつつ、年頭の挨拶とさせていただきます。



保科歴史カルタ完成・販売



保科誌編纂委員長を務めた、堀 邦二さんを保科歴史かるた製作委員長として作成された「保科歴史カルタ」が完成し保科地区の住民の皆様販売されました。非常に好評で12月中旬の段階でほぼ完売の状況です。まだ、数冊残っているかもしれませんが、購入を希望される方は保科久保区の「山下商店」でお求めください。

◇ 遺跡・史跡等への説明板設置進む ◇

～ 若穂の歴史を知る・伝える！遺跡等への説明板・案内板整備事業 ～



川田条理遺跡(若穂病院前)

が中心となって、設置する遺跡の選定から始まり、分担して説明文の作成や、区長等の協力も頂き地権者交渉を行いました。説明文の内容について



榎田遺跡(森地区)

まちづくり部会では令和2年度まちづくり事業として、遺跡等への説明板整備事業に取り組んできましたが、11月末から説明板の設置作業を進め、令和2年12月末を目途に完了する予定です。

この事業は、地区内にある遺跡等30カ所に説明板を設置しようとするもので、まちづくり部会福祉教育分野の主要構成団体である若穂郷土史研究会が中心となって推し進めてきました。若穂郷土史研究会では6月末にリキググループを発足させ、このメンバー



和田古墳群2号墳(上和田)

は、学識者や行政(長野市埋蔵文化財センター他)の指導協力をいただき、記述の正確を期しました。また子供たちにも読めるように漢字にはルビを振る、読み易くするために縦書き文書に算用数字を一部使用する等の工夫を行っています。

この事業が若穂地区の、歴史・文化活動の機運を高める一助になればと願っています。

保科地区に地域おこし協力隊員着任

令和3年1月1日付で保科地区に地域おこし協力隊員の小野寺可菜子さんが着任されます。

小野寺さんから自己紹介と抱負をお寄せいただきましたので紹介いたします。

『初めまして！1月より地域おこし協力隊員として着任する小野寺可奈子です。

昭和62年生まれ33歳、埼玉県草加市から主人と二人で若穂へ越してきました。出身は岩手県大船渡市という秋刀魚と帆立が美味しい小さな港町です。

実は長野県に住むのは二度目です。以前は茅野市蓼科に住んでいました。仕事の都合で関東近郊を転々としていましたが、長野の四季折々の風景が忘れられず「やっぱり住むなら長野だ！」と戻ってきました。

私の協力隊としてのミッションは有害鳥獣対策や果樹の販路拡大などを通じた地域PRです。有害獣駆除のための資格取得や、果樹の勉強などやりたいことはたくさんありますが、まずは若穂の素敵などころをたくさんの人に伝えるため、私自身が若穂を知る1年にしたいと思います。個人的な今年の目標は自分で育てたお米と野菜と味噌(1年でできるのか?)で朝ご飯をたべることです。これからどうぞよろしく願いいたします。』

小野寺可奈子さんが協力隊員として一日も早く若穂に馴染み活躍できるよう住民の皆様のご支援ご協力をお願いします。



本年も若穂地区住民自治協議会をよろしく願いいたします。

問合せ

若穂地区住民自治協議会(長野市若穂支所内)事務局

電話026-282-4621 若穂有線 2062

Eメール wakaho.j@grn.janis.or.jp